

相生デイサービス新聞

発行所
相生DS
44-4165

鯉のぼり 青空に泳ぐ
 圧巻でした。山と山の間に群れる
 数百の鯉のぼり。



五月の風を
 はらんで、
 生き生きと泳いで
 いました。

ご存知ですか 柏もち

うるち米の粉をこねて
 伸ばした皮に、
 あいをはさま柏の葉
 ぞ包んで蒸します。
 ちまきに比べはる
 かに新しいもので
 江戸中期にできました。

俳句

閉じし眼の裏にも若葉繁りけり

五月飯母想い出す母の日に

大ふじを背にして並ぶ夏帽子

和泉精治



新緑のなかの小さな美術館 奥多摩せせらぎの里



今月の おたのしみ

- ・ 母の日
- ・ 遠足 (羽生)
- ・ 外食



(? の花)

— 今月の予定 —

床屋さん

- 1 (木) 傾聴ボランティア
- 13 (火) ささこいポパイ
- 14 (木) 藤美会
- 17 (土) マンドリンとギター
- 19 (月) 習字
- 22 (木) 音楽(小林様)

- 5 (月)
- 14 (水)
- 22 (木)
- 30 (金)

静岡・富士山と茶畑



思い出の旅

初谷(美)



美ヶ原高原

後輩と行った美ヶ原。
 初めての列車の旅でした。
 乗り換えの不安も車窓に流れる風景にいつしか消えていきました。
 二人の声もはずんで列車は信州の山あいをめけて行くのでした。
 鈍く光るレールがどこまでも続いて...
 「また乗ってみたいですね」

天声珍語

夕闇のなかに牡丹の花が白くうかがひあがり、初夏の匂いがする。小料理屋「なつみの水ん」はまだ出ていなかつたが入ってみると、「あら、お久しぶり会いにかつたわ」小柄な女将の商売とは違う素直な喜びがあつた。竹の子の煮付もうまうま酒がすすんだ。「のれん、出さないのか」
 「まだ...まだいいわ」
 その言葉を直した。うなしが白くうかがあがつた。
 (天声)